

年が明け  
 新たな1年が始まりました  
 今月号は、明日に向かって  
 夢を追う二人の区民を紹介します

## 志茂政美

しも・まさみ 18歳 白石区北郷在住  
 建設系企業勤務・札幌工業高校定時制4年  
 ・アマチュアボクサー（通算成績45勝10敗）



# 負けず嫌いが狙う 五輪出場

寡黙な青年。そんなイメージすら感じさせる彼が全国の頂点に立ったのは、平成十三年夏のこと。熊本県で開催された高校総合体育大会のボクシングフェザー級決勝で勝利を収めた時である。

よくテレビ観戦をするなど、ボクシングに興味はあったという。転機が訪れたのは、この種目に伝統的な強さを誇る札幌工業高校への入学だった。昼間は区内の会社に勤め、夕方から同校の定時制で授業を受ける。そして、「要はやる

気の問題」と迷うことなくボクシング部に入った。一年生の時は、かなり痛めつけられたという。ついにはパンチを受けた鼻の治療のため入院。「あれから本気になりましたね」。彼の負けず嫌いな性格が本領を発揮する。練習量がそれまで以上に増えた。授業後の練習で帰宅は深夜になる。「辛いとは思わなかった」と言い切る。そして三年目にしての、まさに負けず嫌いがつかんだ栄冠だった。

四年生になった昨年から成年の部に移ることになった。今までは違い、パワーの大きさや巧みな試合運びに戸惑ったという。それでも昨年の高知国体では北海道代表として出場。惜しくも準決勝で破れたが、彼の全国レベルの實力は誰もが認めるところ。「これからは、がむしゃらに頑張るだけではなく、駆け引きも上達させなくては」と話す。

今年の春には、関東の大学に進学する。将来の目標を聞くと「二〇〇八年北京オリンピック出場です」と即座に答えが返ってきた。「そのためには大学で全国（優勝）をとらなきゃ話にならない」と力を込める。彼の視線はすでに遠くを見据えていた。



▲昨年8月、国体の北海道予選で闘う（写真右）。ここで優勝した志茂さんは高知国体に出場した



▲練習は3分間ごとに何度も繰り返される。リングに上がり鋭い視線でパンチを繰り出す志茂さん



▲志茂さん（前列中央）の所属する札幌工業高校定時制ボクシング部の仲間たち